



PBG ガバナー公式訪問記

PBG 担当地区副幹事
平井国喜・青柳薫子

今年の PBG(Pacific Basin Group)へのガバナー公式訪問は8月8日～17日までの10日間の日程で行われることになりました。ここで改めて PBG についてご説明したいと思います。E クラブを含め5つのクラブがあるグアム。1クラブずつあるサイパン、パラオ、ポンペイ及びチューク（トラック諸島と言った方が馴染み深いかもかもしれません）。日本の34地区の中で外国のクラブが存在するのは当地区だけであり、国際色豊かな地区と言えるかもしれません。昨年のガバナー月信記事でも言及されていましたが、今一度世界地図を広げて同じ地区に所属する同胞ロータリアンが住む国々の場所を再認識してみてください。

さて、今回のガバナー公式訪問の直前、8月2～3日にかけてサイパンを襲った台風13号（名称：ソウデロア）は甚大な被害を島内各地にもたらし、復旧活動が急務な状態でありました。航空便もキャンセル、道路も寸断され市内への足もなくホテルは自家発電で何とか一部営業を続けるものの一般家庭は停電状態が続いていたため、この状態でサイパンへのクラブ訪問ができるのか、またサイパン在住のサブラン・ガバナー補佐が果たして同行可能かどうか全くの不透明な状態でありました。水野ガバナーはこの状況に鑑み、地区内各クラブに呼びかけて義援金を募ることを直ちに決定し、その一部を携えて今回の公式訪問に臨みました。台風がもたらした影響については記事後段に譲りたいと思います。

最初の訪問地はパラオ。同クラブでは地域に密着した様々な奉仕活動に力を入れています。訪問した例会時には公立高校へのタブレット端末の寄贈が教育委員会に対して行われていました。クルージングで案内してもらった南ラグーンとロックアイランド。これは2012年に文化・自然の複合「世界遺産」に指定された場所であり、トルコ色のラグーン（環礁に囲まれた浅い海）10万ヘクタールに浮かぶ445のマッシュルーム型無人島が点在する景観の美しさには思わず息を呑むほどでした。是非皆さんも同地を訪れて自然の美しさを堪能してみてください。



次の訪問地は5クラブがあるグアム。初日の合同例会ではEクラブ会員も含め大勢の会員に出席頂き、クラブ相互の日頃のコミュニケーションの良さが伝わるものでした。

翌日の各クラブとの個別ボードミーティングで披露された奉仕活動の多様性には改めて驚かされ、地域社会のニーズに応えた内容はもちろん、その原資を募るユニークな Fund-Raising の手法には我々も参考にしたい点が多々あることを実感しました。水野ガバナーは、出席率の向上・My Rotary への登録・Every Rotarian Every Year (ロータリー財団への年次寄付のお願い) 等を中心に、2750地区の地区方針を説明されました。また、サイパンの台風被害については、グアム内5クラブで協力し、早速の義援金を募り始めていました。



さて、グアム5クラブの訪問が無事に終了し、翌朝、グアム国際空港へ向かう車中でのこと、“Don't stop Believing”の音楽に乗せて、『今日グアムを発つ2750地区水野ガバナー一行様、お役目ご苦労様！ また、会いましょう、無事な旅をお祈りします！』というDJの軽快な声がラジオから！ PBG担当サントス・グループ幹事の粋な計らいによるサプライズに大いに感激し、気をよくしてグアムからチューク島へと移動するはずでしたが…。飛行機に搭乗して約1時間後、機内放送が流れ、フライトが突然のキャンセルとなり、その後の訪問スケジュールを大幅に変更せざるを得なくなってしまいました。翌日、臨時便が用意され、マイクロネシア連邦チューク島へ到着。1日遅れでしたが、トラックラグーンRCの例会に参加。その後、3日前まで降っていた雨のせいで、コンクリートが削れた凸凹の道路はところどころ冠水し、まるで水陸両用車に乗っているようなスリリングな運転で、

ザビエル高校・コイコイコミュニティーセンターへ。2750 地区内クラブが寄贈してきた机、椅子、機材、水をためるタンクやトイレ設備等を視察しました。夜の懇親会では、4名の新会員の入会式が行われ、会員数が8名から12名へと150%の増強となり、水野ガバナー、シンディー会長も笑顔で記念撮影です。



翌日は、チューク島からポンペイ島へ移動し、25周年を迎えるポンペイ RC を訪問しました。会員数は14名（内1名が名誉会員）と、大変に小さなクラブですが、クイズナイトやカジノナイトなど工夫をこらした Fund-Raising を行い、島の外に沢山の奨学生を送り出しています。島には幾つかの言葉が存在し、共通言語である英語を学び始めるのは小学校の中学年からとのこと、コミュニティーカレッジはありますが、大学はなく、大学に行くためには島を出る必要があり、英語教育の重要性について話を聞きました。また、25周年の記念事業として、コミュニティーに器材を送って組立てが完成したトイレの贈呈式が行われ、参加してきました。識字率の向上や水と衛生等、ロータリーの六重点分野が、このミクロネシア連邦に属するエリアではいかに大切であるか、身を以って知ることができました。



その後も、台風の影響により航空便がキャンセルとなり、予定していた日程を伸ばしたにも拘らず、サイパン RC への訪問は仕切り直しという異例の公式訪問ではありましたが、沢山のロータリアンと出会いその多様な活動を知り、互いに親睦を深めることができた大変に有意義な訪問となりました。